

「食」による持続可能な地域コミュニティの形成



→ スープの無料提供を行う様子

まちの賑わいづくり
産官学連携
食で繋ぐ

DATA

- **主な連携先・メンバー**
NPO 法人 kokoima / 堺市社会福祉協議会 堺区事務所 / 麦わら協生農園 森 哲也氏
社会福祉法人こだま福祉会 ヤオヨロズヤ
- **活動地域**
関西大学堺キャンパスおよび大阪府堺市堺区浅香山・香ヶ丘町
- **活動期間**
2021 年度～継続中
- **活動資金**
堺市と関西大学との地域連携事業

目的

家の軒先で野菜を住民同士で育て、収穫した野菜を調理してみんなで食べる「共に育て、みんなで食べる」こと、すなわち共育・共食で地域力を高めることを目的としている。

活動内容

住宅や店舗の軒先で食べられる植物の生育、調理、食事などの食に関する活動をエディブル、それにより生まれる住民同士の会話や気遣いをケアとし、地域・大学・NPO・行政などによるまちづくりをエディブルケアと定義して取り組みを開始した。

エディブルケアの具体的な活動として以下の5つを実施している。

1. 収穫した野菜の運搬・調理を行うための屋台製作
屋台のデザインと施工方法の検討、図面作成や施工を行う。
2. 屋台を曳いて浅香山地域を巡り、家や店の軒先にポットを置いてくださる方の募集
3. 野菜を育てるポットの製作
使わなくなったジーンズと不織布を用いてポットを製作。

屋台を曳いて
宣伝活動を行う様子



ポットで育てた野菜を
収穫している様子



まちにポットが
設置されている様子



連携先からの一言

精神障がいを抱える方たちが、エディブルケアを通じて学生やまちの方と自然に関わりながら、安心して地域活動に参加できる場が生まれた。人の輪が広がっていくようにポットもまちに広がっていくことを期待したい。

(NPO 法人 kokoima 小川 貞子氏)

活動の成果

- ≫ 2024 年度支部共通事業 日本建築学会設計競技「一浅香山エディブルケア」佳作
- ≫ 2024 年 12 月から参加者の募集を行い、2025 年 11 月 23 日に合計 108 名を達成
- ≫ 2025 年 4 月からポットの配布を開始し、2025 年 11 月 23 日時点で合計 58 名に配布済

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ フードロス取組事業者
- ≫ アップサイクル取組事業者
- ≫ ハンドメイド作家

環境都市工学部 教授 木下 光 Kinoshita Hikaru



『モノ×ヒト=コト』・『デザインを発見する研究、研究が導くデザイン-Research as Design, Design through Research-』・『土木・ランドスケープ・都市計画・建築を統合し、政策を空間化・時間化する都市デザイン』をコンセプトとし「アジアの食と公共空間」、「アジアのクールルーフ～素材からつくる住居」、「戦後日本の都市論」、「産業からみる都市・地域再生」の研究を行う。



人間健康学部 教授 村川 治彦 Murakawa Haruhiko



身体性とケアを軸に、自治体と協働して地域課題の可視化と支援モデル構築を進め、住民のウェルビーイング向上に資する実践研究を展開している。

